

各位

朝日生命保険相互会社

「サクセス A」の進捗報告(平成 16 年度決算の見通し)

当社は平成 15 年度から新経営戦略「サクセス A」を推進し、お客様満足度と収益力の向上を通じ、「お客様に最も信頼される生命保険会社」となることを目指しております。「サクセス A」の本格展開 2 年目となった平成 16 年度においても着実にその成果が現れてきております。つきましては、その進捗状況、ならびに平成 16 年度決算の見通しについて、以下の通り、ご報告させていただきます。

1. 保険業績の見通し

平成 16 年度の新契約年換算保険料(新契約+転換純増加)は、全体では平成 15 年度比 92%程度となる見込みですが、第三分野部分は大きく伸展する見込みです。(第三分野部分は平成 15 年度比で 128%程度、サクセス A 展開前の平成 14 年度比で 238%程度)

また、解約・失効契約年換算保険料は、平成 15 年度に引き続き大幅に減少する見込みです。(平成 15 年度比 61%程度、平成 14 年度比 41%程度)

その結果、平成 16 年度末の保有契約年換算保険料は、第三分野部分で平成 15 年度を上回る伸展を果たす見込みです。(平成 15 年度末比 111%程度、平成 14 年度末比 116%程度)

また、全体では平成 15 年度末比 95%程度となる見込みであり、保有契約の減少幅は着実に改善(平成 15 年度減少率▲8%、平成 16 年度減少率▲5%程度)しています。

《サクセス A の進捗状況》

○第三分野の新商品を続々投入(お蔭様で、「保険王」発売以来累計販売件数は平成 16 年度末で 140 万件を突破しました。)

- ・平成 16 年 4 月に発売した「生活習慣病保険」「介護終身年金保険」「介護一時金保険」はお蔭様で大変ご好評をいただいております。(平成 16 年度の販売件数は、各々約 18 万件、約 9 万件、約 18 万件となる見込みです。)
- ・平成 17 年 4 月には「生活習慣病保険(返戻金なし型)」および「レディースパック」(新商品「女性サポート特約」と既存の「新女性医療特約(01)」の組合せの愛称です)を発売し、「保険王」の医療保障はますます充実しました。(新商品はお客様から大変ご好評を頂いており、発売月である 4 月の販売件数は「生活習慣病保険(返戻金なし型)」が約 1.6 万件、「レディースパック」は約 7 千件となる見込みです。)

※平成 17 年 4 月発売の新商品の詳細は 3 月 25 日のプレスリリースをご参照ください。

○お客様サービスの充実

- ・平成 17 年 4 月から、お客様のご来店が多い東京 23 区内のお客様サービス体制の充実を図るべく、同地域の「お客様サービス窓口」を 3 拠点増設し、全 7 拠点(大手町・上野・新宿・渋谷・亀戸・池袋・大森)とし、あわせて窓口営業時間を午後 5 時まで延長しました。
- ・また、平成 17 年 3 月から、お客様担当制度を改正し、担当者を明確化し、職域(ご勤務先)におけるお客様サービス体制の整備を推進しております。
- ・さらに、担当者による訪問サービスに加え、ご継続のお礼とご契約に対するご要望を承るための「お客様サービスコール」(当社からお客様へのコール)を平成 17 年度から全国展開します。(平成 16 年 6 月から一部地域で展開)
- ・これらに加え、お客様サービス専門スタッフ(サービスメイト等)の配置促進、営業職員による「土曜日の訪問業務」の展開等、お客様に、よりご満足いただき、ご契約を末永く継続していただけるための様々な取組みを引き続き強化してまいります。

○販売効率の向上

営業職員一人当りの新契約年換算保険料も平成 15 年度比 105%程度と平成 15 年度に引き続き向上する見込みです。(平成 14 年度比は 137%程度の見込みです。)

○契約継続率の向上

お客様ニーズに基いた的確な商品のご提案、コンサルティングセールス、定期訪問等、お客様サービスの充実により、ご契約の継続率は着実に向上しています。(ご契約から 7 カ月目の継続率は、サクセス A 展開前の平成 14 年度比で + 5 %程度向上する見込みです。7 月目の継続率の向上に続き、13 月目の継続率も着実に向上[平成 14 年度比 + 5 %程度]しています。)

○営業職員の育成率の向上

平成 16 年度始の新人営業職員に関する人事制度・育成プログラムの改訂等により、新人営業職員の育成率も着実に向上しています。(7 月目育成率は、サクセス A 展開前の平成 14 年度比で + 18%程度向上する見込みです。13 月目育成率も着実に向上[平成 14 年度比 + 20%程度]しています。)

2. 健全性指標・基礎利益等の見通し

○ソルベンシー・マージン比率は、ほぼ平成 15 年度と同水準(平成 15 年度 560.3%)となる見込みです。

○実質純資産額は平成 15 年度より増加し、3,000 億円台後半の水準(平成 15 年度 3,498 億円)となる見込みです。

○保険事業本業のフロー収益である基礎利益は 500 億円程度(平成 15 年度 669 億円)となる見込みです。また、逆ざやは若干減少する見込みです。

基礎利益は平成 15 年度に比べ減少しておりますが、平成 15 年度の基礎利益中の退職年金制度の改正効果等による一時的な利益等の特殊要因を除いた個人保険分野での収益は平成 15 年度水準を確保する見込みです。第三分野部分の保有伸展等により、今後、収入保険料・基礎利益は着実に向上してまいります。(保有契約年換算保険料に占める第三分野部分の占率は平成 14 年度末より 6 ポイント程度向上する見込みです。)

○株式市場の回復もあり、平成 16 年度末の株式は 140 億円程度の含み益となる見込みです。また有価証券全体でも含み益となる見込みです。

※ 平成 16 年度決算については現時点の見込みであり、今後所要の手続きを経た上で、5 月下旬に正式に公表する予定です。

※ 新契約、解約・失効契約、保有契約の年換算保険料について

・「年換算保険料」とは、平準払契約の保険料を年換算(月払は 12 倍、半年払は 2 倍、年払は 1 倍)したものの合計値です。(除く一時払契約)

・「第三分野部分」とは、「第三分野商品」の保険料と、傷害・疾病・介護等のいわゆる第三分野の保障に充当される「特約」の保険料を商品の種類を問わず集計したものの合計です。

以 上